

第1回学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会(協議概要)

1 日 時 令和5年6月19日(月) 14:00～16:00

2 会 場 和歌山県自治会館 304会議室

3 協議の視点

- (1) 学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動の現状と課題の抽出
- (2) 県の方針策定に向けて

4 委員による主な意見

(1) 学校部活動の地域連携・地域移行を進める上での現状と課題について

○ 地域連携・地域移行に向けた周知

地域では、部活動の地域移行のことを知らない方が多い。たくさんの人に知ってもらうことで、地域連携・地域移行がより進んでいくと考える。

○ 文化部活動

吹奏楽部においては、地域連携・地域移行を進めるには、地域の受け皿がほとんどない。また、休日の活動を学校外で行うことを前提に考えると、活動に十分なスペースがある施設や、使用料金が安価で、大きな音が鳴っても近隣に迷惑がからない施設を確保することは容易ではない。

また、楽器等用具運搬を含め、楽器の準備など、自己負担となると高額になる。

○ 小学校年代と中学校年代の運動環境

小学生の時に活動していた競技が、入学した中学校にその競技の部活がないため続けることができない。

○ 平日と休日の指導

平日に指導する教職員等と休日に指導する指導者で活動方針のすり合わせや役割分担などを明確にする必要がある。

○ 和歌山県中学校体育連盟への地域スポーツ団体の加盟

令和4年度に、(公社)和歌山県体育協会をとおして依頼し、県内競技団体及び市町村体育協会に、中学生対象の地域スポーツ団体に大会参加に係る意向調査を行った結果、令和5年3月31日時点で27団体の申請があり、4月に27団体全て認定した。大会への参加が認められたが、現在6団体が参加を見合わせている。理由としては、和歌山県中学校総合体育大会では一人1競技種目との規則があるため、学校の部活動で実施している種目を優先し、所属中学校での大会参加を選択したことや、今後に向けて認定申請のみ行った段階であると把握している。

○ 指導者の確保

- ・ 新たに休日の指導者を確保するための考え方を示すことが必要。
- ・ 市町村の規模によっては、教員に代わる指導者を確保することが難しい。

○ 学校現場の様子

- ・ 新たにバレーボールや陸上競技等の部活を作ってほしいとの要望があるが、学校の設備や教員数の現状では部活動の数を増やすのは厳しい。
- ・ 学校では、部活動指導の専門性だけで教員配置ができるわけではないので、専門性を有しないまま顧問となる教員の負担が大きい。教職員自身が部活動指導に携わるかどうかを選べるような形を作ってもいいのではないか。
- ・ 教員が平日の部活動指導にかける時間は、おおよそ夏場は15時40分から18時、冬場は15時40分から17時である。教職員は平日2名体制（顧問・副顧問）で部活動指導を行っている。部活動後に学年会議や行事の準備など、自分の仕事をすることになるので、教職員の負担は大きい。

○ 近隣市町村による広域での活動

子供が希望する競技を実施するには、周りの市町村と連携していく必要がある。校区や市町村を越えて連携し、活動団体を確保するという事は、生徒の移動距離も広域になるため、活動場所へ安全に移動する手段を確保していくことも大きな課題である。

(2) 県の方針策定に向けての提案

○ 協議会等の在り方

市町村で協議会等協議する場を立ち上げた際には、教育委員会や校長等、地域の団体も参画し進めていけるような内容を盛り込んではどうか。

○ 持続可能な形で生徒のスポーツ環境を確保するための考え方

地域連携・地域移行で未来の子供たちに向けて良い取組にしていくためには、「安心安全な部活動・地域クラブ活動」を実施することが大切である。そうすると、事故やトラブルが起こった場合の「責任の所在」を明確にすることが必要である。

○ 部活動の意義と今後の在り方

学校教育で行ってきた部活動は、異年齢との交流や人間関係作り等、意義あるものだと感じている。部活動は、勝利だけに向かうのではなく、3年間継続して活動できたことによって、自信となることも多かったと感じている。このような部活動の意義をうまく継承しつつ、地域連携・地域移行することで生徒の活動機会を持続可能な形で確保することができればと思う。

○ 活動時における課題に対応するための意見

今まで安価で保障されていた学校部活動が地域で行われることによって、少なからず家庭の負担が増えることが考えられる。市町村の施設を利用する場合などでは、減額されれば家庭の負担も少なくなるのではないか。

5 今後のスケジュール（案）について（事務局より）

本協議会を12月までに複数回開催し、年内に方針を示す予定である。